

ルーブリックの作成 —定義、作り方、注意点—

2024年11月25日（第2回自転車安全教育検討部会）
京都教育大学 福岡祐貴

yuukif@kyokyo-u.ac.jp

【課題】教習所の車庫から出発し、路上に出て、安全性に十分配慮しつつ、実際の道路の状況に臨機応変に対応しながら、二条城の周囲を2周しなさい。試験官が補助ブレーキをかけたり、ハンドル補助を行ったりせざるを得ない状況になった場合、試験は中止となります。

評価するなら基準はこんな感じ？

	円滑な運転操作	危険予測(かもしれない運転)
3	車両の周囲の状況にも目をやりつつ、それぞれの操作を非常に円滑に行うことができ、まとまってひとつの動きをなしている。	現実の複雑な状況において、危険を予測し、回避するのに十分な物理的・精神的な余裕をもって運転している。
2	ややステップ・バイ・ステップであるが、それぞれの操作を支障なく円滑に行うことができる。	教習所内では十分な余裕をもって運転でき、現実の複雑な状況においてはやや余裕がないもののある程度対応できる。
1	操作をするのにいちいちレバーやボタンのほうを見る必要がある。	自転車しか見えておらず、現実の状況にはあまり臨機応変に対応できない。

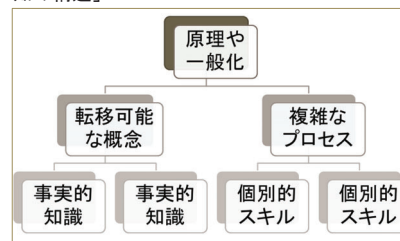


評価基準表の二つの形

▶ ルーブリック

- 成功の度合いを示す数段階程度の**尺度**
- 評点・評語のそれぞれに対応するパフォーマンスの特徴を記した**記述語**
- 生徒の取り組みや習熟・理解の質の高さを判断するために用いられる(一方で、**知識・技能などの単純な有無に対して用いるのは不適切**)
- 指導・学習を改善するための示唆も得られる⇒指導・学習の**手引き**としても使われる

「知の構造」



西岡加名恵(2016)『パフォーマンス課題とルーブリックの作り方、ポートフォリオ評価法の進め方』西岡加名恵編著『資質・能力を育てるパフォーマンス評価』明治図書、p.23より抜粋

▶ チェックリスト

- 検討・確認すべき事項を列挙したもの
- ×で判断されるものであり、**思考力などの質的な高まりを捉えるのには不向き**

課題「清拭」の評価基準(糸賀暢子先生提供)

西岡加名恵(2016)『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、p.178

	A	B	C	チェックポイント
安全性	患者の状況、状態の観察をもとに清潔のニーズを判断し、清拭が与える効果とリスクを考えた援助方法を選択し、患者の反応に留意しながら適切な温度で安全に実施している。	患者の状況、状態の観察をもとに清潔のニーズを判断し、清拭が与える効果とリスクを考えた援助方法を選択しているが、実施中は自分の手技に精一杯で患者の反応をとらえていない。	患者の状況を判断しないで、教科書の手順で根拠のない清拭をしている。	☐ ベッド柵★ ☐ お湯の温度(高温) ☐ 関節の支え ☐ 無理のない関節可動 ☐ 拭く強さ
安楽さ	不必要な露出、相手に冷たさを感じさせず、適度な圧力と速さで必要なコミュニケーションをとりながらボディメカニクスを活用して20分以内で実施し、不快感を与えていない。	不必要な露出、相手に冷たさを感じさせず適度な圧力と速さで実施しているが、ボディメカニクスを活用しておらず、20分以上かかる。	不必要な露出があり、相手に冷たさを感じさせている。	☐ 羞恥心を感じる部位の露出★ ☐ お湯の温度(低温)★ ☐ ウォッシュクロスの扱い ☐ 拭き残し★ ☐ 拭く弱さ ☐ 無理な体位(患者・自分) ☐ 時間(30分以上)★
評価	清拭の目的が達成されたか、観察をもとに振り返り、評価し、援助の問題点、改善点を見出して具体的解決策を立てている。	清拭の目的が達成されたか、観察をもとに振り返り、評価しているが、援助の問題点、改善点までは考えていない。	清拭の目的から振り返らず、自分の主観レベルで、問題解決につながらない反省にとどまっている。	☐ 実施中・後の観察 ☐ リフレクション★ ☐ 解決策

※★の項目が著しくできていない場合は不合格

ルーブリックの作り方：成果物がある場合（特定課題）

①複数人で採点する

- － パツと見の点数(レベル)
を付箋紙で匿名で貼付
- － 実演の場合は、一緒に
VTRを見て採点



- ### ②似た点数がついた作品を集め、根拠を話し合う
- － 続いて、評価が割れたもの
についても議論する

モデレーション

- ・ 複数人が評価の過程・結果を統一するために話し合う
- ・ 既存の採点基準を前提に互いの見方・クセなどを調節する
- ・ 採点基準そのものを問い直すこともある

ルーブリックの作り方：成果物がない場合①（予備的）

1. 三つのレベルを示す全体的ルーブリックのテンプレートを用意する

レベル	記述語
3 優れている	
2 合格	
1 改善が必要	

2. 各レベルで予想されるパフォーマンスの特徴をそれぞれ記述する

- ▶ レベル3＝単元の最後までに到達しうであろう理想的な状態
- ▶ レベル2＝単元末までに全員に到達させたい状態
- ▶ レベル1＝単元を始める時点で見られるであろう学習者の実態

3. 必要であれば、観点別に記述語を整理して観点別ルーブリックを作成する

ルーブリックの作り方：成果物がない場合②（予備的）

1. 観点別ルーブリックのテンプレートを用意する（観点は多くても6個）

尺度 \ 観点					
重みづけ⇒					
4					
3					
2					
1					

- 特定のパフォーマンスを想定しつつ、「すばらしい○○○の条件は何か？」を考える
- 思いついた条件のうち重要なものを観点の数に絞り、観点欄に書き込む
- 「程度の違いを記述する用語集」（次スライド）を参照しつつ、各レベルの記述語を完成させる
- 必要であれば、計100%となるように配点の重みづけを書き込む

（参考）程度の違いを記述する用語集

理解の程度	頻度の程度
- 綿密で完全な - しっかりした - 部分的ないし不完全な - 誤解がある、あるいは深刻な誤概念	- 常に、継続的に - 頻繁に、一般的に - 時々、時に - めったに～ない、決して～ない
効果の程度	独立の程度
- 非常に効果的 - かなり効果的 - いくらか効果的 - 効果的ではない	学習者は課題を……なしとげる。 - 独立して - 最小限の支援のもとで - いくらかの支援を必要としつつ - かなりの支援を必要としつつ
正確さの程度	明瞭さの程度
- 完全に正確である。すべて（の事実、概念、手順、計算）が正しい。 - 一般的に正確である。些少な不正確はあるが、全体としての結果には影響ない。 - 不正確である。数多くの間違いによって、結果が損なわれている。 - 大きく不正確である。終始、重大な間違いがある。	- 非常に明瞭。とてもわかりやすい。 - 概して明瞭。わかりやすい。 - 明瞭さに欠ける。わかりにくい。 - 不明瞭。わからない。

- ▶ McTighe, J. & Wiggins, G. (2004), Understanding by Design: Professional Development Workbook, ASCD, p.192;
西岡加名恵(2016)『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、p.113

ループブリックの三つの特徴

- ▶ **○×では判断できない「質」を見取る**
 - ▶ たくさんある「△」のグラデーションを見分ける
 - ▶ ○×や明確な量で判断できるものはチェックリストで

▶ 間主観的な評価基準である

- ▶ 主観的になるが、信頼性のため客観性も大事……
- ▶ 複数人で観点や基準をすり合わせる必要がある

▶ 事例ベースで構成される

- ▶ イメージを共有するために判断の根拠があるとよい
- ▶ 生徒の実態に合ったレベル分けが必要

〈わざわざループブリックを作る必要があるか？〉

	英単語の織り	段落分け
3	すべて正確である。	している。
2	1～3個間違っている。	(なし)
1	4個以上間違っている。	していない。

〈「高い」「低い」の基準は他の先生と同じ？〉

	英作文としての質
3	レベルが高い。
2	まずまずである。
1	レベルが低い。

〈「自分なり」ってどういうこと？〉

	英作文のオリジナリティ
3	自分なりに作文を書いている。
2	あまり自分なりに書いていない。
1	自分なりに書いていない。

いろいろな「○○ループブリック」

▶ 予備的ループブリック

- ▶ 学習者のパフォーマンスを予想し、あくまで「仮説」として作成したもの

▶ 特定課題ループブリック

- ▶ 特定の課題における学習者のパフォーマンスの評価基準を示すもの
(授業実践上、最も一般的にイメージされるループブリックの在り方と言ってよい)

▶ 長期的ループブリック

- ▶ 学期・学年・校種等をまたいだ学習者のパフォーマンスの成長を描き出したもの

▶ 標準ループブリック(プロト・ループブリック)

- ▶ ループブリックの質を担保するために作られた、ループブリックのもとになるループブリック
- ▶ 現場の実態に応じてアレンジ(ローカライズ)することが前提

長期的ループブリックの例 (住田町教育委員会(2019)『学習指導要領解説 地域創造学編』p.24)		第1ステージ		第2ステージ		第3ステージ		第4ステージ		第5ステージ
観点	能力	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	第5ステージ	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
B 社会参画に 関する資質・ 能力	1 共通する力	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】
	2 多面的・多角的 に考える力	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】
	3 体験・発見する力	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】
	4 好奇心・探究心	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】
	5 問題を解決 しようとする力	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】
C 人間関係形成 に関する資質・ 能力	1 仲間をさぐり つなぐ力	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】
	2 信頼する力	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】
D 自律的行動に 関する資質・ 能力	1 目標に向かう力	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】
	2 課題に取り組む力	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】
E 自己表現意欲 に関する資質・ 能力	1 表現する力	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】
	2 表現する力	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】	【例】

(参考)ループブリックの種類	
①観点を分けるかどうか	
観点別ループブリック	観点を分ける
全体的ループブリック	観点を分けない
②どの程度の汎用性があるか	
特定課題ループブリック	特定課題に対応する
特定教科ループブリック	特定の教科内容を扱う (例)数学的論証、歴史のレポート
特定ジャンルのループブリック	特定のジャンルのパフォーマンスに用いられる (例)論説文、口頭発表、図表
一般的ループブリック	多種類のパフォーマンスを対象に適用できる (例)「説得力に富む」「正確である」
③特定場面对応するの、長期的な進歩を示すのか	
特定場面ループブリック	特定の課題・内容・文脈に対応する
長期的／発達のループブリック	長期にわたる成長を描き出す

- ▶ 西岡加名恵(2016)『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、p.101

規準 (criteria) と徴候 (indicators)

各レベルで至ってほしい姿

レベル	発表での話し方
3	人をひきつけるような話し方ができる。 ・ アイ・コンタクトをとる。 ・ ユーモアを用いる。
2	人に聞いてもらうことを意識して話せる。 ・ ボリュームが適切である。 ・ はきはきとしている。
1	内容をひたすら口に出しているのみである。 ・ 口調がたどたどしい。 ・ 目を合わせず下を向いている。

規準となるパフォーマンスの特徴の典型例

徴候を明記することで、規準の内実が明瞭になる

ただし、徴候を満たしていたとしても必ずしも規準を満たすとは限らないし、逆に徴候が満たされていなくても規準を満たす可能性はある

※記述語が「規準」的か「徴候」的かも要チェック

自転車安全教育で作るなら.....

- ▶ 作るべきは観点別ルーブリック
- ▶ 基本は特定ジャンルのルーブリック、一部観点では長期的ルーブリック？
 - ▶ 公道で走る以上は、どの年代にも共通に備えておくべき思考力・判断力は存在する（何歳だからこの力は要らない、とは考えにくい⇒長期的ルーブリックは不向き）
 - ▶ 一方で、ライフステージごとに異なる観点もある（子育て世代、老年期など⇒長期的ルーブリックにする余地はある）
- ▶ 作成方法は「成果物がない場合②」か
 - ※「望ましい走行」の模範例（VTRなど）があるなら、「成果物がある場合」で
 - ▶ 出し合った「条件」のうち、ルーブリックにすべきものを精選する（そうでない「条件」は、チェックリストとして別個に作る）
 - ▶ 技能の場合、記述語が「徴候」的になりやすい（＝チェックリストになりやすい）のでアンブレラ・ワードを心掛ける

3-2 ライフステージ別の自転車安全教育の主なポイント一覧

子どもから高齢者まで、ライフステージごとに、自転車を安全に利用するためのカリキュラムを作成するにあたり、教える主なポイントは、下表のとおり教えるポイントの詳細については、「ライフステージ別の自転車安全教育のポイント（14～16ページ）」に紹介
なお、自転車はクルマの仲間であり、車道の左側通行が基本であることなど、自転車の基本的なルール等については、本書作成の母体「Enjoy 自転車 life in Kyoto」において、分かりやすく紹介（39～40ページ、55～62ページ参照）

幼児 	低学年 	小学生 	高学年 	中学生 	高校生 	大学生 	社会人 	高齢者
親と乗車	親と一緒に運転	ひとりで運転	行動範囲の拡大	通学の利用	通学の利用	通学の利用	通勤としての利用 子とも乗車	加齢に応じた運転
自転車デビュー	歩道通行も可能			車道通行が原則				歩道通行も可能

知る わかる	知る			
覚える・わかる	覚える・わかる	わかって実践する	わかって実践し、他者にも伝える	
自転車の運転技術の向上 交通ルールの基本を覚える	危険の予測・回避 事故のリスクの理解、社会的責任の認識	指導者としての視点 保護者としての視点	加齢に応じた運転	

知る できる方	交通安全教育の目標	交通安全教育の内容	交通安全教育の方法
• 安全を促すための能力（動作）を身につける • 自転車乗るための基本となる能力（動作）を身につける	• 自転車の安全な乗り方を身に付ける • 危険を予測し、回避することができる	• 子ども乗せ自転車の特性を理解して運転することができる • 加齢による運動・認知能力の変化を考慮し、適切な運転方法を指導する	
• 一般的な交通ルールを知る • 交通ルールの基本を知る • 自走のための能力（動作）を身につける	• 交通規則を知る • 自転車には罰則があることを知る（自転車運転者講習制度等）	• 歩道通行は例外であることを認識し、車道を通行する • 自転車事故時の社会的責任を知る • 危険な乗り方をしない	
• 身近な危険な箇所を知る	• 車道でも必要な走行知識を習得する • 視界が狭いので、自転車乗りに気づく	• 正しい交通ルールを子ども等他者にも伝えることができる • 子ども等の自転車の安全利用の責任を持つ	
• 自転車に乗る楽しさ	• 色々な事をサイクリング	• 趣味としての自転車	

石井英真(2020)『授業づくりの
深め方』ミネルヴァ書房、p.74

学力・学習の質的レベルと「知の構造」

知性的な態度や思考の習慣、科学的教養
に裏付けられた倫理・価値観

見方・考え方
(原理／方法論) に基づいて
知識・技能を総合する

概念 を理解している

事実

事実

を記憶している
内容知 (knowing that)

方略
(複合のプロセス) を適用
できる

技能
(個別的スキル)

技能
(個別的スキル)

を実行できる
方法知 (knowing how)

知識の有意義な使用と
創造 (使える)

知識の意味理解と洗練
(わかる)

知識の獲得と定着
(知っている・できる)

教科内容や学習への興味・関心・意欲

【ワークシート⑥】 第2段階ワークシート：ルーブリックのチェックリスト

※すべての項目を埋める必要はありません。
※太字の項目はとくに重要なものです。

観点1：そのルーブリックは、評価の規準・基準としてよいものとなっていますか？	
ルーブリックで評価するものは、個別の知識・技能を点検するチェックリストでは評価できないものですか？ それぞれ区別して用いていますか？	☐ はい ☐ いいえ
「合格」レベルの子どもは、たしかに「理解」をしているといえますか？ また、「不十分」レベルの子どもは、まだ「理解」に至っていないといえますか？	☐ はい ☐ いいえ
ルーブリックは、（レポートの文字数や字の丁寧さなど）見えやすい特徴ではなく、パフォーマンスの核心となる特徴を評価するものとなっていますか？	☐ はい ☐ いいえ
ルーブリックの記述語は、「かなり」「よく」「あまり」のような単純な比較の言葉ではなく、パフォーマンスの質をとらえる言葉でつくられていますか？	☐ はい ☐ いいえ
ルーブリックの一つの観点のなかに、異なる観点が混ざらないようにつくられていますか？ また、必要な場合には観点を分け、観点別ルーブリックにしていますか？	☐ はい ☐ いいえ
ルーブリックは、実際の子どもの作品例をふまえてつくられていますか？ 子どもたちの学習の実態をふまえてつくられていますか？	☐ はい ☐ いいえ
ルーブリックの記述語を具体的に把握するために、（いくつかのレベルに）各レベルを代表する子どもの作品（アンカー作品）を添えていますか？	☐ はい ☐ いいえ
観点2：そのルーブリックは、指導に活かすことのできるものですか？	
どのパフォーマンス課題に対してルーブリックを使うか決めていますか？ ルーブリックを用いる対象（子どもの作品や実演）を決めていますか？	☐ はい ☐ いいえ
ルーブリックに示されている記述語の意味（観点とレベル、規準と基準）は、採点をする教師の間で十分に共有されていますか？	☐ はい ☐ いいえ
ルーブリックの中身は、子どもたちと共有できるものですか？ 子どもたちにとって難しい場合、共有する工夫がなされていますか？	☐ はい ☐ いいえ
子どもたちは、ルーブリックを使って自分自身のパフォーマンスを改善することができますか？	☐ はい ☐ いいえ
ルーブリックを使って採点をしたときに、どのような情報が得られるのか、その情報を次の指導にどう活かすのかについての見通しが立っていますか？	☐ はい ☐ いいえ

* Wiggins, G., *Educative Assessment: Designing Assessments to Inform and Improve Student Performance*, Jossey-Bass, 1998, pp.184-185. McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.207などを参照しつつ、徳島祐彌作成。奥村好美・西岡加名恵編著『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準、2020年、巻末資料⑧。

【ワークシート⑦】 ルーブリックづくり用テンプレート

教科・科目：_____ 学年：_____ 名前：_____

単元・課題：_____

レベル	作品ナンバー	記述語
5 素晴らしい		
4 良い		
3 合格		
2 もう少し		
1 かなり改善を要する		

* 西岡加名恵作成。奥村好美・西岡加名恵編著『「逆向き設計」実践ガイドブック』日本標準、2020年、巻末資料⑨。

長期的ルーブリックの例
(住田町教育委員会 (2019) 『学習指導要領解説 地域創造学編』 p.24)

【表 3－3】 各ステージにおける社会的実践力の系統表

☆ 汎用的スキル		★ 態度・意欲・学びの価値															
資質・能力の分類		A～D)に関する各資質・能力とその定義		第1ステージ			第2ステージ		第3ステージ			第4ステージ			第5ステージ		
				年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	
A 地域理解	自分たちの地域の歴史や文化、現状や抱えている課題、活用資源を理解し、ふるさとに愛着をもちながら町の発展・創造に関わる自分の役割等を捉える。				身近な「ひと・もの・こと」との関わりを通して、自分たちの住んでいる場所のよさとして受け止めることができる。			地域の人々の暮らし、生活の知恵や伝統など、住田固有のよさについて理解を深め、それらを大切に地域に積極的に関わることができる。		住田の歴史、文化、産業、先人などに関する住田ならではのよさや文化遺産を通して受け継がれているものを捉え、自己の生き方のかかわりで考え続け、更に発展させていこうと取り組むことができる。			地域の発展に貢献した先人の業績や、経済や産業などの現状を踏まえ、住田固有のよさを継承したり、現在住田町が抱えている課題について、よりよい解決を目指したりするなど、積極的に地域の一人として生きる自分を自覚しながら取り組むことができる。			地域の「ひと・もの・こと」とつながりながら、これからの町づくりについて考えを深め、住田で学び、暮らしていることに誇りをもち、地域社会の一人として住田町の発展に寄与することの大切さを捉え、取り組むことができる。	
	B 社会参画に関する資質・能力	1 ☆見通す力	【☆見】	自分や集団にとっての課題や問題を発見し、その解決方法を見いだす問題発見力。情報を適切に活用する力。目標の達成に向かって解決の道筋を見通し計画する力。		身近な「ひと・もの・こと」について思いや願いを持ち、その実現に向けて、目標を自ら設定して計画を立てたり、手順を考えたりしながら、取り組むことができる。			身近な「ひと・もの・こと」に関わり、自分にとって価値のある見出した課題について、解決の計画を立てて取り組むことができる。		自分が見出した課題に対して根拠のある予想や仮説をもちながら、解決方法を考えたり、自分の考えを絶えず見直し検討したりすることができる。			これからの地域の在り方に願いを持ちながら、抱えている複雑な問題に対して、様々な情報から因果関係を見通し、地域の人々や仲間とともに解決に向けての方向性や取組を検討し、判断することができる。			
	「ひと・もの・こと」等の地域の実情を理解し、身の回りにある課題や問題を捉え、これからの地域の在り方や、よりよい社会づくりについて提案・発信することに関する資質・能力	2 ☆多面的・多角的に考える力	【☆多】	根拠を明確にしながら様々な見方や考え方で検討する力。批判的思考力。考えや解釈の妥当性を考える力。予測し判断する力。		具体的な遊びや活動体験を通して、心と体を一体的に動かしながらあれこれ思いを巡らして活動に取り組む、自分なりにその価値を意味付けたり価値付けたりすることができる。			課題を解決するために、共通点や差異点を基に比較したり、根拠をもって関係付けたり、条件付けたり、多面的に調べたりしながら、妥当性のあるよりよい考えを見出すことができる。		課題を解決するために、調べた情報や考えなどを関係性や特徴などについて分析して解釈し、より妥当な考えを作り出すことができる。						
C 人間関係形成に関する資質・能力	3 ☆提案・発信する力	【☆提】	地域への愛着を持ち、よりよい社会づくりに向けた取組を提案する力。解決策や考えたことについて効果的な発信方法を考える力。新しい視点や価値観を生み出す力。		周囲の「ひと・もの・こと」と関わりながら、楽しかったことや感じたことを絵や言葉などで表すことができる。			捉えた町のよさがよりよく伝わるように、様々な方法のまとめ方を学び、発信方法を広げることができる。		よりよい社会づくりに向けた取組について、相手に応じた表現や提案の仕方、発信方法を選択・決定し、取り組むことができる。			持続可能な社会づくりの視点から、これからの住田町にとって必要な事柄や対策について具体的に提案し、自分たちの発信後の効果を想定しながらよりよい発信方法を工夫して、地域から広がりがある発信をすることができる。				
	4 ★好奇心・探究心	【★好】	身の回りや地域の事象に興味関心を持つ態度。もっと知りたいと思う心。知りたいことや解決したいことをみつけようとする姿勢。		自分を巻き取り「ひと・もの・こと」に自発的な関心に向け、それを自分自身にとって意味のあるものと感じ取り、積極的に関わろうとしている。			周囲の「ひと・もの・こと」に自発的な関心に向け、それを自分自身とのかかわりで意味付けをしながら、自分で取り組むべき課題を見出そうとしている。		周囲の「ひと・もの・こと」に関して自分が見出した課題について、主体的に学習活動を展開し、自分なりに納得できる答えを探し求めていこうとしている。			唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。				
	5 ★困難を解決しようとする心	【★解】	失敗してもあきらめずに挑戦しようとする心。集団の仲間とともに困難な場面に直結しても粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする姿勢。		興味・関心のあることだけでなく、自分のやるべきことをしっかりと行い、やり遂げた喜びを味わう経験を積み重ね、自分にとって難しいと思うことも最後までやり遂げようとする。			困難な場面に直面しても、共通の目的に向かって仲間と共に粘り強く取り組み、失敗してもその経験を生かしながら最後までやり抜こうとする。		目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならないことも挑戦し続けることの大切に気付く、着実にやり遂げようとする。			目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならないことも挑戦し続けることが日々の生活を充実させていくことにつながることに気付く、社会の発展を支えていこうとする。				
D 自律的活動に関する資質・能力	1 ☆伝え合う力	【☆伝】	調べたことや自分の考えを伝える力。視覚的に伝え方を工夫する力。気持ちや感じたことなどを伝える力。双方向的に伝え合う力。		地域の出来事や自分の生活等について、身近な人々や思いや考えを伝え合い、関わるのが楽しきことが分り、進んで交流することができる。			丁寧に理由付けしたり、事例をあげたりしながら、自分の考えを伝えることができることと、話し手の伝えたいことや自分の聞きたいことの中心を捉えて聞き、考えを伝え合うことができる。		資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、互いの立場や意図を明確にしなが伝え合い、考えを上げたりまとめたりすることができる。			自分の考えが伝わるように、場の状況判断しながら言葉を選ぶなどの適切な働きかけを行ったり、様々な立場や考え方を尊重しながら他者の考えを受け止めて相互理解を深めることができる。			自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と適切に応じたコミュニケーションを図ることができる。	
	2 ☆協働する力	【☆協】	目標達成に向かって、他者と協力して活動できる力。議論し合ったり、集団活動を統制したりする力。		友達や身近な人々と楽しく活動する中で、共通の願いや目的を見い出して、工夫したり協力したり、問題を解決しようとしたりすることができる。			共に活動する仲間等と、互いの思いや願い、考えを交流しながら、力を合わせて取り組むことができる。		共通の目標に向かって、仲間や関わる人々の中で、自分の立場や果たすべき役割を果たしながら、様々な活動に積極的に活動することができる。			様々な集団での活動において、活動する意義や目標を捉え、互いに協力し助まし合う関係を築き、その中での自分の役割や責任を自覚し集団の一人として活動することができる。			様々な集団での活動において、集団の一人として、よりよい活動や生活に寄与できるような自分自身の在り方を振り返り、所属感を高めながら取り組むことができる。	
	3 ★他者受容	【★受】	多様な他者の考えや価値観、立場を受け入れる態度。相手を尊重したり敬意を抱いたりする心。		身近な人々と一緒に活動する経験を積み重ねることにより、相手にも思いや考えがあることに気付く、仲良く活動することの楽しさや助け合うことの大切さを感じ取っている。			地域の人々や仲間の思いや願い、考えを大切に受け止め、自分の異なる意見や考えについて、その背景にあるものを考えながら大切に捉えている。		地域の人々や仲間の思いや願い、考えを共感的に受け止め、いろいろな見方や考え方があることを理解し、広い心で異なる意見や立場を尊重しようとしている。			関わる人々について様々な個性や立場を尊重し、広い視野に立ったものの見方や考え方があることを理解し、よりよいものを求めようとする。			自己の思いや意見を適切に伝え、他者の主張を的確に理解し、自分自身を高めながら他者と共に生きることを意味を捉えている。	
D 自律的活動に関する資質・能力	1 ☆感じ取る力	【☆感】	自己の現在の姿を見つめる力。考えや発想、思いを自分自身で捉えたり、捉え直したりして、これからの自分の学びや活動をよりよいものに調整しようとする力。		関わる「ひと・もの・こと」と自己を結び付けながら問い直したり、自分の生活とのつながりを見出したりして自らの生活を豊かにしようすることができる。			課題の解決に向けた取組の進捗状況振り返り、自分の現状を認識し、自分たちの学びや活動に必要なことを捉えることができる。		課題の解決に向けた取組の進捗状況振り返り、目的を捉え直し自分自身の考えの妥当性を検討したりして、自分にとってよりよい達成を目指すことができる。			様々な観点から課題の解決や目標の実現状況捉え、物事の本質を見極めながら、よりよい自己実現に向けて探究することができる。			様々な観点から課題の解決や目標の実現状況捉え、物事の本質を見極めながら、よりよい自己実現や生き方を志向し探究することができる。	
	2 ☆創出する力	【☆創】	出会う「ひと・もの・こと」に触れて面白さや楽しさ、よさを感じ、自分なりに表現する力。新しい表現の仕方を生み出したりする力。		自分の感性や気持ちを表すことを楽しんだり、表現を通して対象との関係を作り上げて楽しんだりすることができる。			感じたことや考えたことをもとに、自分の感性や創造性を発揮しながら、発想したり創意工夫したりすることを楽しむことができる。		目的や条件等を踏まえて、感じたことや考えたことをもとに自分の感性や創造性を発揮しながら、発想したり構想したりして、自発的に創意工夫して表すことができる。			感じたことや考えたことをもとに、新たな発想やイメージを広げたり生み出したりするなど構想を練り上げて、創造的に表すことができる。			目的や意図に応じて自分の考えを表現する力を創意工夫し、豊かな感性を育みながら創造的に表現することができる。	
	3 ★自己肯定感	【★肯】	学びの過程や活動を省察したり、最後までやり遂げた達成感を味わったりしながら自分のよさを捉える心。自分の可能性を前向きに受け止め、より高いもの・よりよいものを目指して取り組もうとする態度。		自分のできるようになったことや生活の中での自分の役割が増えたことを喜び、前向きに過ごそうとする気持ちを持っている。			自分のことは自分で行い、よく考え判断して行動し、自分にとって学ぶことや可能性に気付く、よい所を伸ばそうとする。		目標を持ち、自分のよさや持ち味を発揮しながら、その実現に向かって努力し、自分にとって学ぶことの意味や価値を見出し、自分の生き方につなげて考えようとする。			自分を見つめ、より高い目標に向かって着実にやりぬく強い意志を持って取り組み、学習の成果から達成感や自信を持ち、自分のよさや可能性に気付く、自分の人生や将来、職業を考えていこうとする。			これまでの学習を通して自分に身に付いた力を客観的に見つめ、自信を深めるとともに、将来の人生設計に生かしていくために必要な道路選択を主体的に自己決定しようとする。	